

の地理學の進歩のみに止まらずこれによつて、世界の不明であつた東方の地圖が修正され完成されたことは誠に我等後人の模範であつた、我等は本書を讀むことによつて、當時の狀勢を明にすると共に先輩のいかに多くの英雄的、獻身的努力があつたかを知ることが出来る。本書挿入するところの五十個の圖版には或は明治天皇山阜屯田御通整圖をはじめ奉り古代の繩紋土器から、近世の江差松前屏風、露國使節の一行、高田屋嘉兵衛、松前崇廣の肖像其他いづれも眼のあたり當時を追懐せしむるの鮮明さであつて近時稀に見る好著であることと感じ喜びの情に堪へない。第六卷史料二は明治二年以後の開拓の經過をのべた資料で、新しい村落發達の研究資料として人文地理學上の好參考書であることは言を待たない。(藤田)

○文部省維新史所藏圖書目録

非賣品

昭和十一年三月末現在に於ける文部省維新史料編纂事務局所藏圖書の目録で菊版八〇八頁アイウエオ順に書目が配列してある、地理地圖に關したのも多い、大正十二年の大震災に殆ど全部を焼失したので、それから今日までに復舊につとめた結果であるが、火災前の目録でもあればと思はざるを得ない。(藤田)

○北平附近二萬五千分一地圖

國立北平研究院出版
一幅定價一元

北平附近の二萬五千分一の實測圖が出来た、技師は佛人普意雅(ブイヤード・M. G. Boullart)氏である見本をみた

けであるが、森敷の中にある集村の散布せる有様とか北平城内にいかにも多くのグリーンがあるかなどいふことがよくわかる。紙は模造紙で印刷は鮮明である。コントロールは米突で入つてゐる、二十五米毎に曲線をいれ、三十米、三十五米、四十米、四十五米等はすべて補助曲線即ち點線で入つてゐる、百米は計曲線でやゝ太い。何といつても廣い大陸の實測圖である。局部地圖としても參考にはなるであらう。(藤田)

○大川平三郎君傳

竹越與三郎著 昭和十一年九月發行

製紙王として名高かつた大川翁七十七歳の祝に同人の間に相談が出来て竹越三又翁の手にこの一卷が出来た、徳川末期から昭和の今日に至る社會史の方面に於て、いかに實業界が躍進したかといふことを知る珍らしい傳記である。同時に製紙の變遷を知つてバルブから水電に至るまで、紙一枚の仕事が遂に天下の財政に影響するに至ることを教えられる。併せて海運界の活動ともなり、上海での製紙工業なども大川氏の活動のうちにあつたことがわかる。蓋し時代の生んだ實業界の一つのかわやかしい丈夫の成功であつた。政治家や軍人が成功をうたはれるのも結構であるが、同時にかうした人の傳記に其幼年時代から青年時代への苦勞と修養があることを教えられるのは何よりである。(藤田)

○上海の果物

支那の國産では胡桃、栗、棗、荔枝、千龍眼が主要であり、輸入は柑橘、林檎、果汁、果酒であるが最近の輸出一千万元、輸入四百萬元に達する。

問屋は三箇所に集中し十六舖東門路一帶に五十九軒集中し、其一部は佛租界に十數軒に分れてゐる、十六舖の果物問屋はもと蕪家渡一帶にゐた芋や馬鈴薯の青物問屋のわかれである、小賣店は南京路、靜安寺路、霞飛路、四川路等の大通繁華の街に集中し、牛肉店や大百貨店内にて之をうるものが多い。南京路の華豐行は一日に二百元をうり上げる、霞飛路の大華、公泰、の趙福生、祥生郷などは百元乃至數百元を小賣するといふのである。虹口には數軒の日本商店があつて、内地、朝鮮、臺灣の産をうつてゐる。

虹口市場には露店のデミセが多い、小資本經營の果物商で資本としては露店一臺に約五、六十元。一ヶ月使用、長六呎幅四呎の臺が六元でかりられる。

一露店一日の營業は場所がちがうけれども大略三十元から百元まで旅館、料理屋、工場などの注文のある店では一ヶ月五、六千元に達する、地産の桃や草苺など果樹園の委託品もある、多くの露店は午前の營業で夜間は品物を收め店をとちる。

擔ぎ賣をするものも又甚だ多く、小資本經營で十六舖は毎朝この擔賣人で一ぱいになる。

日本から林檎九萬二千圓、蜜柑一萬五千圓、サンキスト、

四千九百圓、梨二萬八千圓、溫室葡萄四千五百圓、柿一萬三千五百圓、枇杷四千三百圓、チェリー一千八百圓、西瓜一萬二千圓合計十七萬六千圓強を輸入する、其多くは日本人、西洋人間に販賣消費される、蜜柑のごとき支那は其本家であるが、今日では到底日本品に及ばない、日本品は冷蔵庫に貯へ陳列も廣告も包装もすべて支那に勝るので支那産の果實は壓倒されざるを得ない、支那産品で有名なのは。

有柑、蕉柑、紅橘、本地早、乳橘朱紅、甜橘、雪柑、沙田文旦、文旦柚、金柑をばし彩草、虎皮、花皮、砂林檎、金星、白沙蜜、香蕉林檎、花紅等があり、梨は鴨梨、鵝梨、恩梨、萊陽梨をはじめ各種の果實は甚だ多い。

柑橘は廣東省第一、福建これにつぐ故に香港、潮州、福州厦門はその輸出港である。

近來日本から北支那への果物輸入は非常に盛んになつた、中國人の注意が必要であるとは彼の地の雜誌に詳述されてゐる近頃の様子である。

○露國に於ける北鐵代償物資

一九三六年十二月までに日本及滿洲より五千萬圓を越えた物資がロシアに送られた、これは大豆六萬二千噸、植物性油八千八百噸、マニラロープ六千噸、小麥粉一萬五千噸、茶四百萬圓、漁網百四十萬圓、セメント三百四十萬圓、絹織物、毛織物、綿織物、小間物五百八十萬圓、人絹糸百七十萬圓、銅線及びケーブル、七百三十萬圓、黒色金屬三百二十萬圓、有色金屬九千萬圓、靴

底草百二十萬圓其他であるが、最近は露國から注文の電氣機械、旋盤、漁業用船舶(二百七十萬圓)等であり、今後は茶、セメント諸種の機械及船舶が輸出される筈である。

面白いことはモスコウのペトロフカ街中央百貨店で本邦産毛織物が(北鐵代償物)左の如き高價で羽が生えてうれてゐることである。

毛織物、男子用背廣服地 一米 百八十留

女子用 服地 一米 百二十五留乃至百六十留

絹織物(本絹人絹交戀)婦人用 一米につき 六十五留

本邦品と露國品の外に他の外國品はない。日本品は品質良好で賣行がよいとは店員の語る所であるが、右の如き賣價について考へると一米につき百二十五留、百八十留は、現行公定外國爲替相場に換算すると一留は四・二五法だから、一米が七十三圓二十錢から百二十二圓四十錢となる。絹の方は六十五留は一米四十四圓二十錢の高價できくだけどもびつくりする。つまり本邦商店の卸賣の十數倍乃至三十數倍である。しかしこの換算率は露國に居る外人との取引に用ひられるので事實ロシア人同志の懐勘定ではない、さうして本邦との運賃關稅其他の掛を差引き、ロシア政府がどこまで利してゐるかは明ではないけれども、他によるべきものもないから、一般世間並のロシアの他の物價をしらべると大體は本邦の等物價に四倍乃至十數倍してゐる。即ち、鳥獸肉一キロは七圓、砂糖一キロは五圓、鶏卵一箇三十八錢、靴一足百五十圓、靴下

木綿一足三圓、人絹婦人靴下十圓、ハンケチ一枚一圓だといふ狀況であるから、一留を邦貨十錢(公定は一留六十八錢即ち四・二五法であるけれども、他の物價から比較して國內では約十錢だとみる)位のところにおいて右の毛織物を見るとモスコウでの毛織物一米は約十八圓から十二圓五十錢、絹物は一米六圓五十錢にあたるのである。

それにしても、露國の國內事情によることではあるが、蘇聯邦は本邦品を販賣するに當りて渺からぬ利益を得てゐることとは確實である。

○死海の水 パレストアイン、ヨルダン河の注入する死海は鹽分に富むてゐること有名であるが、その含有物質は左の如くである。

	水面の含有比	水中二五〇呎の深さで
Salt 食鹽	七%	八・五%
Potassium chloride	一%	一・五%
Magnesium Bromide	〇・四五%	〇・七%
Magnesium chloride	一一%	一七%

深度が高くなるほど濃厚になつてゐるが、いかにも多量のマグネシウム・ソルト又はプロマイド・ソルトを含むてゐる外に右の如くポタシウムの多いことに着眼し一九三一年ボメスキ及チユローヒの二氏は、この海水から化學鹽抽出に關する特權をパレストアインとトランスヨルダンの兩國から獲得し、その年に會社をつくり、主として死海北部で、ボタシユ

ーム並にプロマイドの製造を始めた。

この工場は當初年産一億噸の加里を産する豫定であつたが一九三二年の好成绩で二億五千噸乃至三億噸の製造能力を有する工場に擴張したが猶注文に應じきれない好景氣で、今や八十萬磅の資本で死海南部にも同様の工場を増設するやうになつた。元來ポタシウムは他國では原料は岩鹽のうちにあるので、之を熱湯を以て不純物を溶解し除去する方法を用ひてゐるのであるが、こゝでは死海の海水を鹽田に吸上げ之を天日にて結晶さして、ジョルダン川の清水で洗うので生産費は極めてやすい。たゞ山脈中にあるのでこれを海港に運ぶ費用で相殺されるに過ぎない、もし安價な運搬方法がつきさへすれば、その發展はいよゝゝ疑ふべからず、其製品は既に英、愛、和、澳、致、希、印度、蘭領東印度、アメリカ各地に輸出され主として肥料に使用されてゐる。

この死海の水にはポタシウム、及マグネシウム、プロマイドの包有量は前者二〇億噸、後者九億噸と推定されてゐる。世界第一の低窟で人がはまつても沈まぬといふこの海も、かうした利用の方面が発達してくるやうになつた。注目すべきことであらう。

○古倫母港の防波堤

セイロンでは昔はゴール港が對外貿易地であつたが汽船の時代になつてゴールは潮流が早くてよれない、東北岸トリンコマリーは良港であるが位置がわるい。そこで一八七五年コロomboに築港することになつ

た。一九一二年までに四つの防波堤が出来た。爾來印度洋中の一大港になつたが防波堤は(一)南西防波堤、(二)これに接続分派する Shattering arm (三)北西防波堤(四)北東防波堤の四つ、五月から十月までのモンスーン期間の巨浪はすべてちるし十月から四月までの東北風に際しても何ともない。

最初に出来たのは南西堤で四千二百十二呎工費七〇五、二〇七磅に達した。一八九四年に北西・北東の二堤を計劃し一九〇六年完成工費六〇〇、〇〇〇磅に上つた前者は千百呎後者は二千六百七十呎。

港の出入口は、西北堤を中心として左右に二つ、幅八百呎の西口と七百呎の東口とである。ところが西南モンスーンには西口から大波が入るので、西南堤突端の少し手前から北方外海に更に二千呎の防波堤をつくつて西口をかこうたのである、これが第二の安全肢堤である工費三三八、九三一磅であつた。

各堤の厚さ三四呎だがこの肢堤は三十六呎出入口の水深は西口四二呎、北口三〇呎で夜間には右に赤燈左に赤燈と綠燈とがつく、港内面積約一平方哩西南風では西面し東北風には北面して繫留する。

水深は三十三呎の船が入れる、一九三五年中に入つた船では四萬二千三百噸長七百三十三・三呎幅九七・八呎のエムプレス・オフ・プリテン號が最大であつた。しかしどうも狭いから外堤を廣げたいがそれは困難で容易に實現しないであら

う。そこで陸地で古倫母湖へ連絡してゐる運河を深へて大船を入れて荷役するやうに計劃されるであらう。

水先案内人は強制使用制度を用ひ、陸上には廣軌鐵道があつて構内に十五哩を延長し、それから島内本線に聯絡し、南印度へ聯絡するやうになつてゐる。

○埃及の最近事情

一九三〇年二月關稅自主權を恢復する迄の埃及は農業を除く外産業は不振であつた。しかし主權恢復後の埃及はやゝ見ちがへられる。

一、農業では優秀な埃及棉の外に玉葱と稻との品種を日本からとつて耕作し、玉葱と埃及米が歐洲方面に向けられ、甘蔗は上埃及でつくられ、バナナ、水瓜、密柑、オレンジ、マンゴー等は自給自足に近づいた。

二、牧畜業では羊肉を好むため、牧羊の研究をはじめ養鶏は農民の副業となり卵の輸出が出来た。

三、水産業はナイル河の川魚をとつて食ふが地中海、紅海方面に鯛がとれるので、ダミエツタに鯛鐵詰工場が出来た、乾魚、煙魚其他の輸入が多い。

四、鑛業は燐鐵石を紅海岸コセイルよりとつて日本に輸入年額四十萬噸、其他原油が年に二十萬噸とれる、蘇土石油精製所ではルーマニアから原油を輸入してやつてゐる。

五、工業は一九三〇年以前はセメント、紡績何れも微力であつたが今日では製糖業、石鹼業、硝子工業などが出来て幾分國外の輸入を防ぎ、織維工業は近年著しく發達し錘數十六萬、織機四千五百臺に達し、絹織も出来ればメリヤスの工場

も出来毛織物工業もやうやく着手されて、いづれも本邦品の輸入に稅率を高めて國內工業の保護をはじめた。

六、家具工業は木材が輸入品で、ベニヤは本邦から入るが勞賃低く手先が器用で輸入を杜絶した。

七、皮革工業も盛で家内工業式に靴をつくるものが増加した

八、紙巻烟草工業は近東より原料烟草を輸入してゐるが本邦よりの輸入は一九三五年度一、二九九、七六九担に達し、輸入葉烟草の約五分一をしめてゐる。

交通 埃及と諸外國との交通運輸はスエズ、ポートサイド、アレキサンドリアといふ世界交通の要點にあるから不便を作はないが、最近地中海航路にのりだしミスル海運會社はマルセイユ、亞歷山港とを連れ、航空では英國王立航空會社の飛行機が毎週四回アレキサンドリヤに着陸しミスル航空會社はパレストインへの定期航路の外に最近バクダートへ新航路をひらいた。さうして東洋航空路は亞歷山都より週二回、南阿航路はカイロより週二回、和蘭KLM社の蘭印航路はカイロ及マルサ・マトルーフ(亞歷山都近郊)を往復共二回宛經由し、航空路に於ては世界的に重要な位置をしめてゐる。

國內交通では陸運は國有鐵道でポートサイドからカイロ經由、アレキサンドリア及カイロから上部埃及に至る多くの線が出来て、延長二、六七三浬である。局部的に電車、バスも動いてゐる。水運はナイルのアッスワンからデルタ堰に至り同堰から一はロゼツタ、一はダミエツタに至る二流にわかれ且又運河の便がアレキサンドリアに通じてゐる。